

国見町 CI（コーポレートアイデンティティ）策定支援事業

国見町 CI 企画について

株式会社パーティ・フォー

〈国見町の基本理念〉

命を大切に 誰もが幸せに暮らすまち くにみ

〈国見町の主なご意向〉

1. 移住を強引に進めるのではなく、町民がほのぼのと幸せに暮らしていれば、人が住みたくなる町として移住者が増える
 2. 特定の産業に偏ることのない、「CI」としたい
-

国見町「CI」作成にあたる私達の考え方

これからも幸せに暮らすために、何をすべきか、抽象的なワードではなく、具体的な事業イメージを想定できるワードが必要である

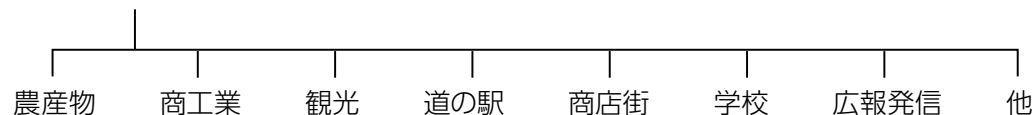
町は「事業経営主」という考え方を想定

「CI」を事業名をイメージさせるワードとデザインとする

事業の活性化は10～30年先を見据えての「CI」とする

〈寄り町国見・事業の提案例〉

寄り町事業委員会



CI / ブランド事業の実績より

	CI 及びスローガン	0年	10年	20年	30年
富山県 ブランド創出 事業	「チューリップ でメイクアップ 東京」	東京・原宿表参道 ・銀座他に 年一回チューリップ を装飾演出	「チューリップ」と いえば富山県に	オランダを抜く 品種改良技術を 持つまでに	新たな「CI」に 着手
国際卓球連盟 卓球ブームの 創出	隠れる卓球から 「見られる快感 卓球へ」	おしゃれなイメージ に全て一新 ・卓球の複合施設 ・卓球カフェ ・卓球台、ボール ・広報発信活動	卓球ブーム化となり 卓球人口が増える 日本からブルーの 卓球台を発信	国際試合の 卓球台が 全てブルーに	卓球世界 チャンピオン 主催のジュニア 育成事業への 支援
宮島（広島県） 活性化事業	厳島神社 「宮島三女神 物語」	宮島の産業 商店がそれぞれ ブランドとして 取り入れ、活性化	宮島町の 地域開発事業着手	新たな「CI」 ブランド化へ	

一度訪れたらわかる国見の魅力、
まずはお気軽にお立ち寄り下さい
昔のように、これからも
多くの人に寄ってもらいたい、寄りたくなる

“ 寄り町 ”

「寄り町」ワードは

実は、1000年前から町民が伝え続けている「国見町づくり」をひとことで未来へ伝えるフレーズと、私達は思いあたりました。

約1000年前は頼朝、義経、弁慶……江戸時代、参勤交代で通った将軍、文化人、有識人、芸術家、専門家、豪商、上方、江戸からの旅人などなど、トレンド情報を有する人々をなんとか滞在させたく、おもてなし、情報収集を行い、結果、短歌、俳句、茶道、商売のノウハウなどを取得。町に賑わいの場を創出させ、農村にまで習い事を浸透させた。

菓子名人からは和菓子を習い、国見和菓子を誕生させるなどなど、今日の国見生活に潤いを創出させた。

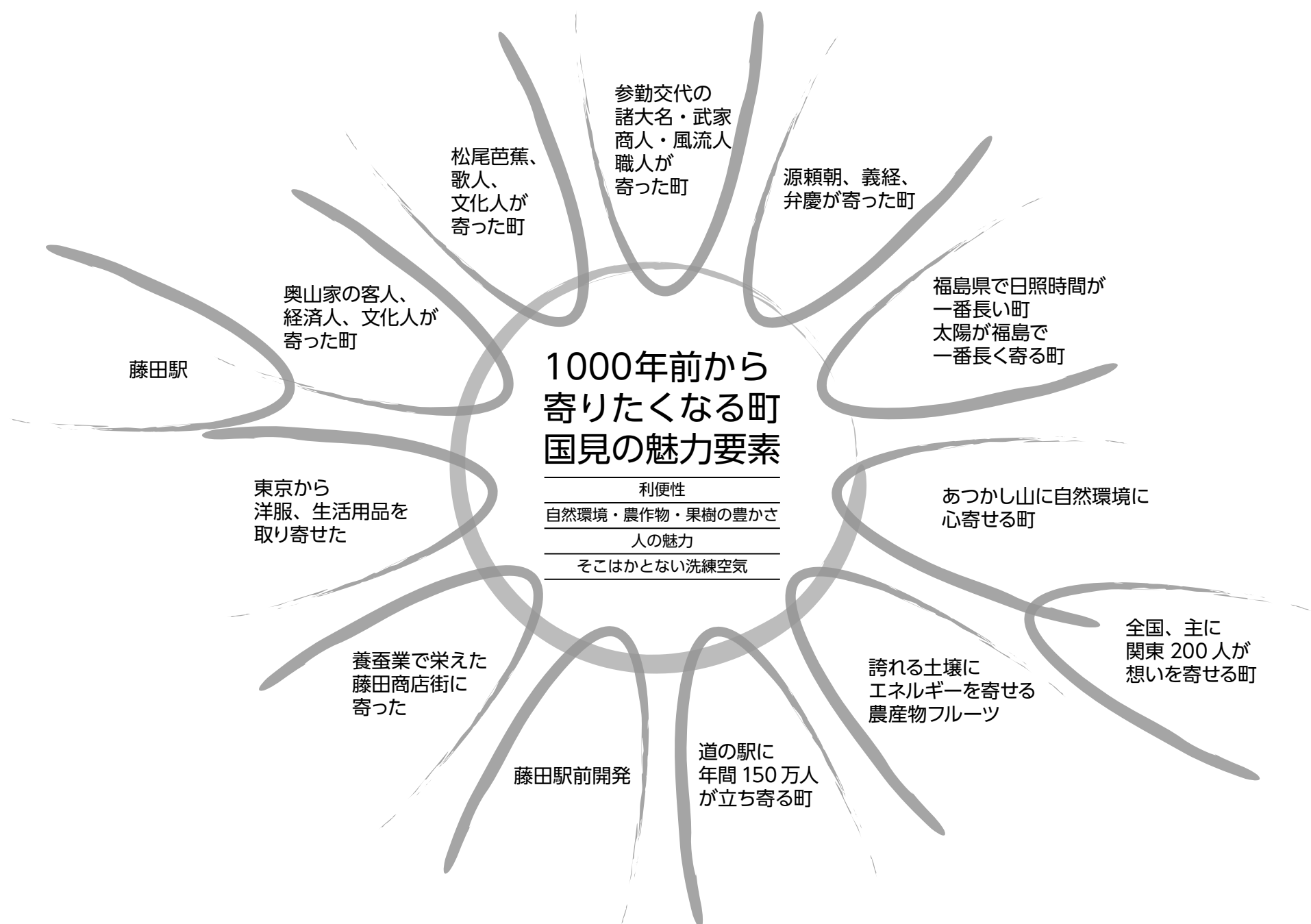
藤田駅が完成後は、その利便性から奥山家が新たな町づくりを行い、東京から直接トレンドの生活物資、情報を仕入れ、多くの文化人、著名な有識人を招き、生活文化向上の為、多様な人材を寄せ、それらのノウハウ取得を行った。

今や、道の駅などを通じた情報、販売ノウハウの取得などにより、新たなニーズを掘り起こし、ビジネスチャンスを生み出し続けている。

<スローガン案>

(1000年前から、これからも)

寄り町・STAY・国見町
時代の変化イメージ



1000年前から
寄りたくなる町
国見の魅力要素

- 利便性
- 自然環境・農作物・果樹の豊かさ
- 人の魅力
- そこはかかない洗練空気

参勤交代の
諸大名・武家
商人・風流人
職人が
寄った町

源頼朝、義経、
弁慶が寄った町

福島県で日照時間が
一番長い町
太陽が福島で
一番長く寄る町

あつかし山に自然環境に
心寄せる町

全国、主に
関東 200 人が
想いを寄せる町

誇れる土壌に
エネルギーを寄せる
農産物フルーツ

道の駅に
年間 150 万人
が立ち寄る町

藤田駅前開発

養蚕業で栄えた
藤田商店街に
寄った

東京から
洋服、生活用品を
取り寄せた

藤田駅

奥山家の客人、
経済人、文化人が
寄った町

松尾芭蕉、
歌人、
文化人が
寄った町

その町の付加価値の一つは 町の歴史にあります。

国見の魅力ルーツを、古代～近代に至るまでの
歴史から掘り起こし、検証いたしました。



国見の歴史から 今、未来を見つめた CI の方向性案

P.F. 視点

	古代	中世	近世	現代	東日本大震災	これからの社会環境から	
主な歴史	<p>鉄器文化が徐々に伝わり農作業の効率が向上し、現在までの稲作農業の第一歩となる</p> <p>中山遺跡、上野台遺跡、岩淵遺跡全国的にも最大級の複式炉を持つ 竪穴式住居などなど……</p> <p>古墳時代に農耕生活は、更に発展、階層の文化を促した。富を蓄えた豪族達が築いた古墳、副葬品が多く残っている。石材の採石加工、製鉄も行われていた。</p>	<p>源頼朝は、28万4千騎ともいわれる軍勢で、平泉に進軍 藤田宿へ着陣 藤原国衡（くにひら）、阿津賀志山防塁を構築したが敗れる。藤原代奥州支配終わる！</p> <p>源頼朝、鹿島神社に戦勝祈願をし藤田地名とする伝説あり 義経、立ち寄り伝説「腰掛松」</p> <p>豊かな湧水があり、灌漑施設が整備され生産の基盤強化 伊達五山の一つとして光明寺が建立され 伊達五山の一つとして光明寺が建立され 伊達代のもと寺院の整備が行われた</p>	<p>参勤交代の主要街道として、宿場町の整備が行われた 本町域には、奥州街道・貝田宿・藤田宿、羽州街道小坂峠がある 藤田宿は、旅籠が並び、商人、農民の憩いの場となり、近郊の者が多く集まり投宿 貝田宿と小坂峠は、参勤交代の大名達の休憩に用いた、険しい峠道を上る為の牛宿も多くあった</p> <p>主に藤田宿を中心に、江戸、上方から、俳人、絵師、風流人、甘味職人などが寄り、滞在し、そのまま住む者も多くあった 庶民、商人、農民の「憩いの場」旅籠屋の主人、問屋、町役人、富商は文芸の道と職業柄の教養が必要 利便性から江戸から呉服、食を仕入れ、いち早く江戸文化を摂取、販路拡充し、伊勢、上方へ旅行するものも多かった 藤田宿を中心に宿場文化は農村にまで繁栄、松尾芭蕉も立ち寄り、滞在した</p> <p>江戸後期から養蚕業隆盛となる</p>	<p>豪商奥山家三代に渡り 国見生活文化をリード 東京から生活用品を仕入れ、呉服などを販売 農地も広く取得、金融業、鉄道の誘致 迎賓館を建設し「要人のもてなし」接待に使用 国見町の生活向上に貢献</p> <p>藤田宿は宿場、農村集落の中心として、物産が集散する「在郷町」として強まる 国見石の流通により、石蔵が広く分布</p>	<p>自作農を主体とし、農業の変革へ 米、養蚕、果樹、野菜と近郊農業の町となる あんぼ柿の製造始まる 農村と藤田宿で、六斎市にて消費 農業、養蚕業との関係を強め 在郷町として、明治・大正・昭和初期まで</p> <p>S.29 国見町誕生 4号線開通 仙台、福島間の東北線電化 水稻、養蚕、果樹を基幹産業とする桃栽培増加</p> <p>S.40 小坂峠、自動車道開通 藤田病院設立</p> <p>S.50 東北自動車道、東北新幹線開通 国見インターチェンジの開通により 首都圏との距離短縮 利便性強化となる</p> <p>S.60 しあわせな暮らしづくり目指す町 全国で有数な果物の産地となる</p> <p>首都圏との距離短縮し、農産物などの物流拡大が期待される</p>	<p>復興への道のり 復興と夢の両輪にて 「道の駅」計画～実現へ</p> <p>国見の宝物発見の為、関東の女性100人ツアー及び、「くにみしゅらん」実施 「道の駅」完成し 年間150万人来場の人気の「道の駅」となる 歴史、資源の整備、再構築し 千年公園、二重堀、防塁公園など 観光事業への着手 農業訓練所を開設し、農業従事者確保の足がかりを 駅前のにぎわい創出の第一歩として レストラン、小ワーキングスペースなどの総合施設を開設</p>	<p>SDGs サスティナブル 気候変動 ウクライナ戦争による物価高 同時にコロナ感染拡大 世界中の人々の生活を一変させる程 暮らしの価値観の変化 自然環境の良い、採れたて 農作物を食し、好きな仕事をし好きな仲間と会い、人生を生きる… それらの現状が、グランピング、キャンプ場の人気、リゾート型ファーム ガーデン菜園、それらの関連商品のマーケット拡大を続けている 自給自足時代の農業</p> <p>度重なる災害 農業従事者の高齢化 後継者不足による農業衰退</p>
	農業	鉄器文化が徐々に伝わり、農作業が向上し 稲作農業の第一歩		稲作産業、後期は養蚕業、製糸業が発達、様々なリスクが多い養蚕業が新たな生業へ転換	明治後半から続々と 果樹生産地への転換	果樹主主に桃栽培が盛んとなる	果樹が人気で、桃「あかつき」が 全国方位、県内方位の出荷量
地の利 生活文化	日当たり良く、山に囲まれた豊かな自然環境、良質土壌から稲作～養蚕～果樹～野菜など時代に対応した上質な農作物が作られる						
	源頼朝・義経も立ち寄ったと言われるほどの1000年前からの利便性は今も続く！						
	主に江戸時代から、その利便性により参勤交代など、大名・武士・豪商・風流人・職人が立ち寄ることが多く風流文化をしっかりと発信、国見の人々が吸収し、それが1000年続く人々の『国見DNA』となったと想定						
	さらに、藤田駅の完成にて、東京から新しい、洗練された生活物資情報が入り、ハイカラな国見町（上質な生活文化）となり、その洗練性は今も続いている						



元禄 11(1698)年 奥州伊達郡貝田村絵図 県庁文書『若松城地関係其他』(1983)



天保年間 (1830~1844)
藤田村絵図



小坂村絵図 (江戸時代後期)
('小坂区有文書'より)
※福島県歴史資料館委託



伊達郡大木戸村大字貝田全図

江戸時代の幹線道路である 奥州街道は、陸奥・松前 諸大名の参勤交代の 主要街道として、 宿場町の整備が行われ、 多くの人々が寄り、賑わった

出典「国見町歴史文化基本構想」第2章 国見町の概要より

【街道・宿の成立】

江戸時代の幹線道路である奥州街道は、江戸から陸奥三厩むつみんまや（青森県）まで続き、陸奥・松前諸大名の参勤交代の主要街道として、宿場町の整備が置かれた。

伊達・信夫両郡には 12 の宿駅が置かれた。主要宿駅には本陣・脇本陣が設置された。また、名主・組頭・百姓代の村役人のほかに、宿役人として年寄・検断・問屋が置かれた。奥州街道を登るのは松前・八戸南部・盛岡南部・一関田村・仙台伊達の諸大名であり、桑折宿において、七ヶ宿を通る出羽・津軽の大名十三家がこれと合流する。本町域には、奥州街道貝田宿・藤田宿、羽州街道小坂宿があった。

藤田宿は、大名や公用役人の宿泊は少なく、一般の庶民や公用ではない武士が宿泊する旅籠が並び立ち、商人・農民の憩いの場所でもあった。享和4(1877)年頃には、旅籠16戸、料理屋11戸があり、大いににぎわい、毎月1の付く日と6の付く日に市が立った(六斎市)。

貝田宿と小坂宿は、ともに峠を隔てて仙台藩領に接する境界の宿場であったことから、小規模な宿場であるものの口留番所が置かれ取り締まりが行われていた。口留番所付近の道は鍵型に折れ曲がり、町尻に寺院が整備されるなど特徴を持つ。小坂宿では、小坂峠を背後に持つことから、旅人の旅籠や険しい峠道を上るための牛宿などが軒を並べた。同宿は参勤交代の大名達も休息に用いた。

第四節 国見の近世文化・諸芸



「道中日記」
(小坂 寛政三年二月)

近世文化と
国 見

近世の国見町は、奥州街道と小坂峠による米沢・秋田への往還道路とに面した交通の要衝に当り、桑折宿を含めて藤田・貝田・小坂は伊達四宿といわれた。とくに小坂峠をもって連絡する街道は、板谷峠が冬期閉鎖によって閉鎖される半年間は唯一の米沢本街道となり、大名の参勤交代の本陣、合いの宿の役目を果し、街道を上下往還する江戸藩邸結の武士、代官所役人、さらに奥羽行脚の俳人、絵師等の風流人、出羽三山参りの団体は必ずといってよく、藤田・小坂を通った。

藤田宿が桑折・保原について要米業・妻種・絹織物・紙などの集散地として経済力を蓄積し、富商が軒を並べて店舗を構え、商取引の商人が止宿、中には支店を設置し、土着して老舗となった例がある。取引商人の定宿となる旅館屋の主人、問屋場・検断などの町役人、富商は、文芸の道を嗜むことが、職業納の教養と心得た。一方、交通の発達によって江戸文化の動きをいち早く摂取することが可能となり、販路拡張のために上府し、あるいは伊勢参宮を兼ねて上方旅行する者が多かった。農村の人々も江戸・上方文化を見聞する機会を得て、藤田を中心とする宿場町文化は農山村にまで浸透拡大されていった。

彼らは、俳句・和歌・俳諧歌などの文字・書画、さらに芸道といわれる長唄・義太夫・三味線・碁・将棋の類から、華道・茶道までも及び、それぞれ仲間結社をつくり、これを総称して「藤田連」「五十沢連」といって隣郷の「桑折連」をしのぐ時期もあり、白石・仙台・米沢との交渉も盛んだった。こうした文芸・芸道と宗教信仰の面から、国見の近世文化を見極めてみよう。

交通の要衝であった
国見町は、
藤田宿を中心とする
風流な宿場町文化が
農山村まで浸透拡大された。

多種、多様な上質な人々が寄って賑わい、
滞在し、文化を発信し、それは
国見の農村部まで浸透し、
国見風流生活文化となっていた

出典「国見町史」第一巻

奥山家住宅（国登録有形文化財）／右上：洋館／左上：主屋／左中央：洋館内部の様子



右下：大正 13 年 第百七銀行藤田支店

明治時代、藤田宿で 豪商・奥山家が生まれた。 奥山呉服店を創業の他、 金融業、貸家業、 駅・銀行も誘致された。

出典「国見町歴史文化基本構想」第2章 国見町の概要より

【豪商の誕生（奥山家）】

明治期に本町域において豪商が生まれた。藤田の宿場で初代奥山忠左衛門は奥山呉服店を創業、東京から仕入れた呉服類を手広く販売、売り上げを伸ばした。明治 4（1871）年 1 月の藤田村内の売上では第 2 位の実績を残している。

2 代目忠左衛門は呉服店を更に拡張、同時に農地を広く取得し、金融業も始めた。

3 代目忠左衛門は、土地の取得を更に拡大、同時に貸家業を始めた。また、奥山合名会社を設立し、金融業を更に拡大、北海道の胆振地方鶴川村の山林を買収する。更に日本鉄道会社奥州線藤田駅（現：JR 藤田駅）と第百七銀行藤田支店の誘致に尽力するなど奥山家は 3 代目で隆盛を極めた。



（三代）奥山忠左衛門 1859（安政 6）～1929（昭和 3）

国見の迎賓館として、東京から経済人、
文化人を多く寄せるため、奥山家洋館は建てられた。

奥山家により、銀行、呉服商も出来、
町は新たな町へと変化し、情報、物資とも豊かになった。



奥山家のお取り寄せ装飾品



東北自動車道 国見インターチェンジ



公立藤田総合病院

昭和 40 年代～
小坂峠道・東北自動車道
東北新幹線が開通、
国見インターチェンジが開設
藤田総合病院が完成され、
ますます便利になり
人々の行き来も増えた

出典「くみに歴史本」より

昭和 40 年代に入ると小坂峠道が自動車道（県道 46 号線）として開通し、公立藤田総合病院が新築落成しました。同 50 年（1975）には東北自動車道が開通し、同 57 年（1982）には東北新幹線（大宮～盛岡間）が開通しました。

特に国見インターチェンジの開設によって国見町は、首都圏と短時間で結ばれることとなり、現在も食糧供給基地としての役割を担っています。

2017年、震災復興の夢とともに
昔の様に、多くの人を寄らせる
賑わいの場づくりとして
「道の駅国見 あつかしの郷」を完成



「道の駅国見 あつかしの郷」は、
完成当初から多くの人で大盛況
今や年間 150 万人寄らせている



1000 年前から今も続く つまり、国見の魅力を集約すると

(1) 利便性

時代の変化はあれど、
「道」の利用によって
物流、流通、先端情報を
モノを寄せた町

(2) 心地よい環境

あつかし山などの山々に囲まれ
東北一、日照時間の長い国見
自然環境、良質土壌から
上質な農産物、果物が生まれた

(3) 人々の力

常に新しいことを吸収し、
環境の変化を前向きに受け入れ、
上質生活文化を育み、
上質産業にした町民のすばらしさ

外部は、一度行くとその良さ、
素敵さに刺激され、また行きたくなる町、
寄りたくなる町とずっと続いていく……

私達、外部から見た
寄りたくなる訪れたくなる
国見の宝

国見町の土壌

「こんな野菜が採れる土の不思議」が第一印象





パーティ・フー情報ブレーン

渡邊 哲弘

**京都大学
資源環境学 助教**

東日本大震災以降、「土壌」と「土壌中におけるセシウムの挙動」等についてのセミナー、情報発信を実施中。

2012年2月、土壌の専門家・ 京都大学 渡邊助教に「国見町周辺」の土壌について 情報取材を実施

① 川内地区の土壌は「有効土壌」といえる

- (1) 一般的に土壌の深さは30cmが平均の中、
長い農作物を作れるということは、特別である
- (2) 今後100年、200年は現状の土壌の状態は保たれると言える
(※現地視察を行っていないので、国見町土壌については推測での話とする)

② 農作物の出来る粘土質土壌は、バランスの取れた良い土

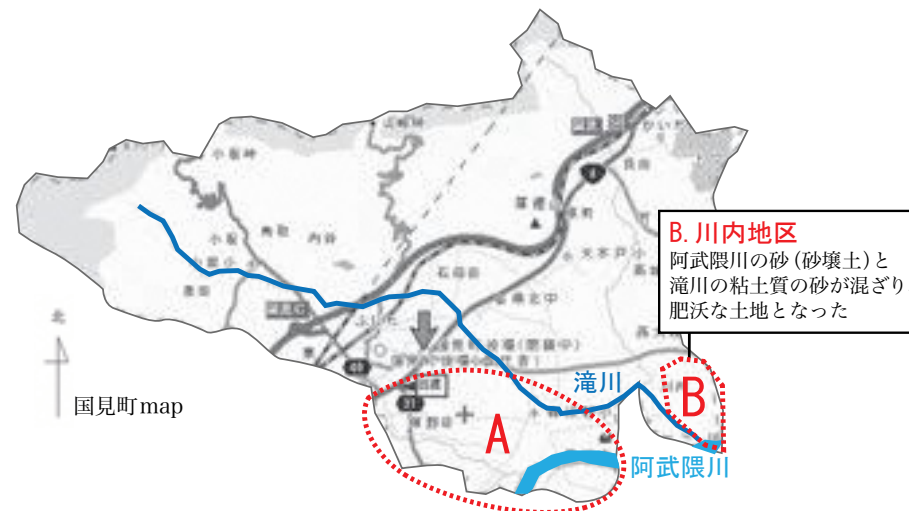
粘土質土壌は、日本全国に多くあるが、
固体、液体、空気のバランスが取れた土は、
微生物も多く、水、養分を含みやすく良い土と言える

(※現地視察を行っていないので、国見町土壌については推測での話とする)

③ 放射性セシウムは、土壌内に入ると、土の中の雲母が しっかりセシウムを包み込み、何があっても離さないで、 土壌内は問題ない

国見町の「土の力」を国見の方に情報収集

- ① 粘土質で肥沃な土地。
- ② 昔ながらの縄文時代から人がすんでいるという、土地の素晴しさ、土壌の良さ
- ③ 果樹、米が美味しくできる土地。
- ④ 下の方が砂地が多い（※ A）→木が育ちやすく、桃の木が多い
- ⑤ 長にんじんなど、特徴的で特別美味しい野菜が取れる川内地区



国見町のフルーツ

四季折々の上質なフルーツ、町内外の多くの方々に魅了し続けている



国見町の農業

自然環境、良質土壌が育む農業と次世代農業の育成



国見町の食

国見母さんたちの、上質であたたかさを持つ



干し大根と野菜の煮物
大田 邦子さん・MICK

干し大根と野菜の煮物
大田 邦子さん・MICK

凍み大根煮物
大田 邦子さん・MICK

凍み大根煮物
大田 邦子さん・MICK

いか人參
大田 邦子さん・MICK

いか人參
大田 邦子さん・MICK

秋のよぐり天ぷら
大田 邦子さん・MICK

秋のよぐり天ぷら
大田 邦子さん・MICK

国見町の歴史

阿津賀志防塁、あつかし千年公園、奥山家洋館他、多くの歴史ある町



国見町の人々

常に新しい上質なものを受け入れる、大らかな人柄



国見町の道の駅

年間 150 万人来場する人気スポット



町外、仙台、東京、神奈川、関西の女性達
有識人、著名人、文化人の国見ファンが多い
一度訪れたら、国見の宝を実感
以来、桃、りんごをお取り寄せし続けている方々多数

国見町の応援団

震災後から昨今も、国見を訪れて何かお役に立ちたいとの有識者、専門家の方々



女子栄養大学名誉教授
松本 伸子 氏

国見町応援大使の方々



国見町応援大使
分とく山 総料理長
野崎 洋光 氏



国見町応援大使
くみに女性100人サポーター会長
日本バスケットボール協会 会長
三屋 裕子 氏



国見女性 100人応援団ツアー

震災後から、国見を訪れ、今も機会があれば訪れたいという関東近県の方々



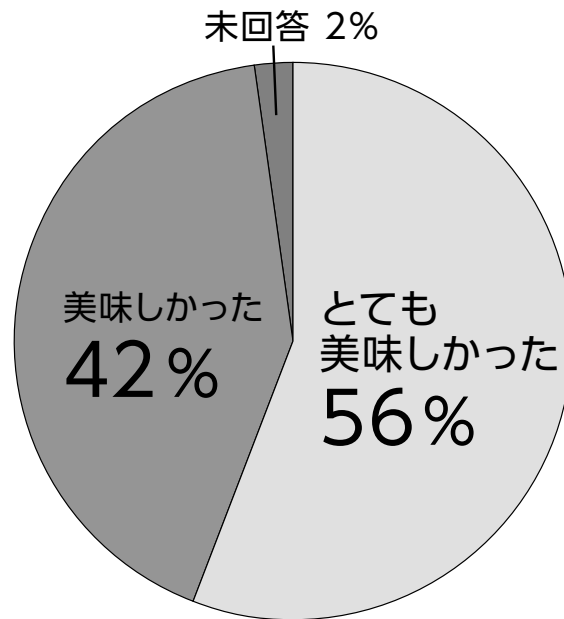
くにみしゅらん

今も機会があれば訪れたいという他県の方々

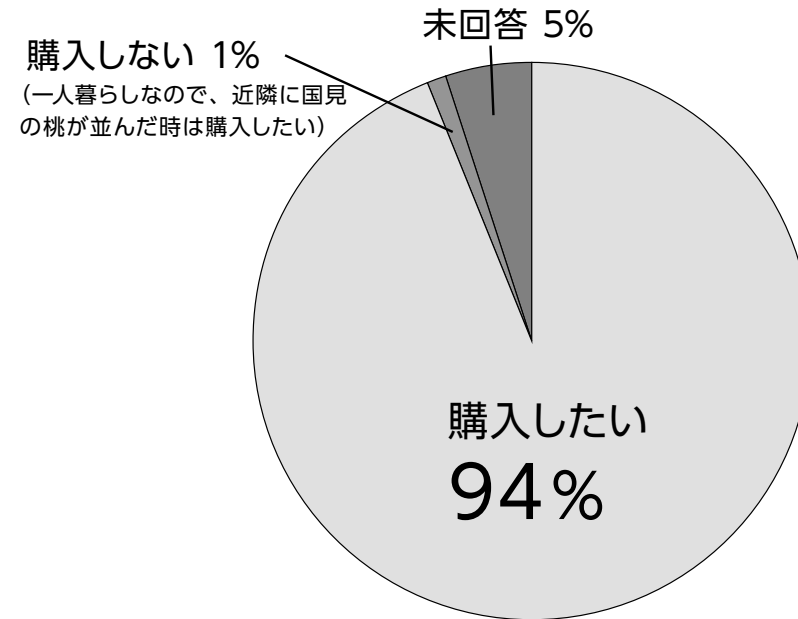


国見女性 100 人応援団ツアー アンケート集計結果より

1. 国見の桃の味



2. 国見の桃の購入



3. 国見町の「人」の印象、感想

- ・親切、明るい、優しい（9名）
- ・素直で温かい（5名）
- ・素朴、誠実（5名）
- ・温かさがいっぱい（3名）
- ・人情があつい（3名）
- ・元気、温かく、明るい（2名）
- ・気さくで頼りになる（2名）
- ・おもてなしの気持ちが温かい（2名）
- ・前向きで一生懸命（2名）
- ・みんな頑張っている（2名）
- ・おもてなしの心いっぱいで迎えていただいた（2名）
- ・穏やかに静かな中にも明るさを感じた（2名）
- ・みんな一生懸命、前向き、フレンドリー（2名）
- ・人にやさしい、桃農家の人柄
- ・気さく、心から待ってくださったことが感じとれた
- ・思っていたより気さく
- ・町長さん以下おじさま方がかわいい
- ・穏やかに温かい、おしゃべり好き
- ・ユーモアたっぷりの人柄
- ・自分の仕事に誇りを持って力強い
- ・あたたかく、おっとり親しみやすい
- ・桃畑、佐久間家の長男の熱意が伝わった
- ・気さくで方言で話してくれるとホッとする
- ・自分の育てたものに愛情を持っている人たち
- ・明るく気さく
- ・中山恭子さんと話し、楽しく元気で国見を愛していることが伝わった
- ・心のあたたかい愛のある方
- ・控えめで優しい
- ・温かく気づかいのある方

国見町・町民・外部の情報収集結果

2

関係人口・交流人口

(地域と関わりを持つ人) (仕事や観光で訪れる人)

一度来た方

- のんびりとした人との交流が心地よく忘れられない
- おもてなし心がうれしい
そこはかとなくおしゃれ
- 農業のベテランの方々が素敵、歴史が面白く、食が全ておいしい、道の駅が良い
- 友人にクチコミしたいが、クチコミポイントがない
- 謙虚すぎる、もっと自慢すべき
- 宿泊所、フルーツカフェなどがない
- 道の駅すばらしい! また来たい

外部の方々

- 小さな魅力にあふれた町人、歴史資源、自然
- 国見は宝物溢れる町、人・自然環境、農作物、フルーツの美味しさ、洗練性
- 利便性と盆地ならではの視界のやわらかな広がり
- 小さな町に歴史、観光資源が凝縮、歴史〇〇の可能性大
- 災害を越え、変化をプラスに変える町民力

「あの人達に会いたい!」
人生のセカンドステージの可能性

<まとめ>

「もっと国見の宝を認識し自慢、発信して欲しい。
そして、それをクチコミにのせる手法を積極的に。
会いたい人がいっぱいいるから行きたい。
道の駅以外に寄る場があれば、宿泊があれば、また行きたい町。一方、私たちだけのお取り置き町のイメージも維持してほしい。」

1

町の考え

(役所の方々)

- 住民に理解してもらいやすいもの
- 住民が「国見に住んでいて良かった」と感じ、国見の魅力を再認識できる表現が望ましい
- 身の丈の魅力発信
- 住民に納得、理解してもらうことが重要
- 四季が良い
- 利便性
- 何でも受け入れるオープンな雰囲気
- 若者人材の育成充実化へ
- 道の駅以外、立ち寄る場が欲しい
- 新しい生き方をしたい人が来る
- 国見独自の野菜ブランドが欲しい
- そぞろ歩きしたくなるストリート場
- 農業産業の発展への積極的な具体策としてのくみ農業ビジネス訓練所の設立を有効に
- 人が良い

<まとめ>

町民、国見ファンと外部視点を加え、広い視野で更なる国見の魅力を再認識し、国見未来の可能性の方向性も踏まえ、世代を超え、町民と情報共有できるブランディングを発信したい。

3

定住人口

(町民・移住した人)

町民

- 国見の自然環境、人が好き農作物全て美味しく、旬のおすそわけ当たり前
- 交通の便も良く、住み続けたい
- 歴史も深く、この心地良さを知ってほしい
- 人との交流の場があればもっと良い

中学生

- 歴史が自慢、自然、人がやさしく良い
- 果物や米、食べ物がおいしい
- 歴史的文化的財がある
- 自由にしゃべって交流できる場所がほしい
- たくさんの人達に自慢される町、全国的に知られる町になってほしい
- 地域に貢献できる仕事につきたい

新・町民

- 国見の人、生活環境良く心地良い
- 住みやすい気候風土、農作物美味しく、農業を楽しめ、ビジネスの可能性大
- 歴史から新たな情報、モノを受け入れ、変化し続ける町
- 小さな町の良さがある

小学生

- 人が明るく元気で良い、やさしい
- 桃がおいしい
- もっと活気があふれる町になってほしい

Uターン町民

- 国見出身で生活は国見でテレワーク活用中
- 東京で買うフルーツよりずっとフルーツの品質が高くて美味しい
- 国見は人が少なく住み心地が良い
- 良い素材を生かした料理が魅力

高校生

- 東北最大級の道の駅がある
- 自然豊かで美しい町、果物が美味しい
- 歴史がたくさんある
- 人々が助け合う
- ずっと住んでいたい魅力的な町になってほしい
- 他地域の人と交流できる町
- 自然豊か町でいてほしい

<まとめ>

歴史自慢で、自然環境良く、農作物全ておいしく、人はやさしく、住み続けたい町だが、もっと魅力発信し、交流するにぎわいのある町にしたい。
そして、これからも変化をいとわず、子供達に常に夢を与える環境の町にしたい。
新しい夢づくりを出来る町にしたい。

現状の国見町内の 「寄り町事業」への可能性イメージ案

1. 道の駅（寄り町商品のブランド化など）
2. 農業ビジネス訓練所（農業起業家への支援の充実など）
3. フルーツ農家（フルーツガーデンとしての演出など）
4. 藤田駅前賑わいの場（周辺市町村にないおしゃれ化など）
5. 歴史スポット観光、イベントなど（広報活動の促進など）
6. マルシェ（他にない演出としてのマルシェのブランド化など）
7. 他



寄り町
ポイント

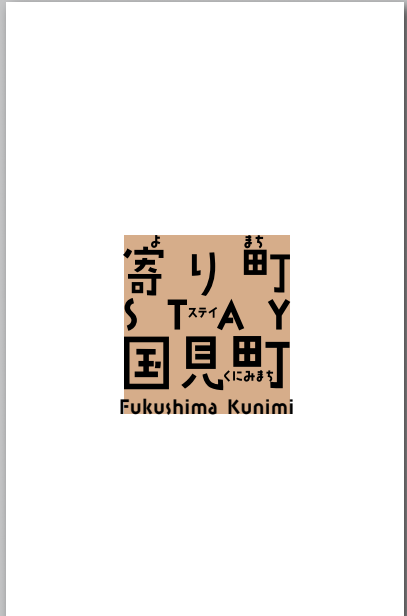
寄り町
ポイント

寄り町
ポイント

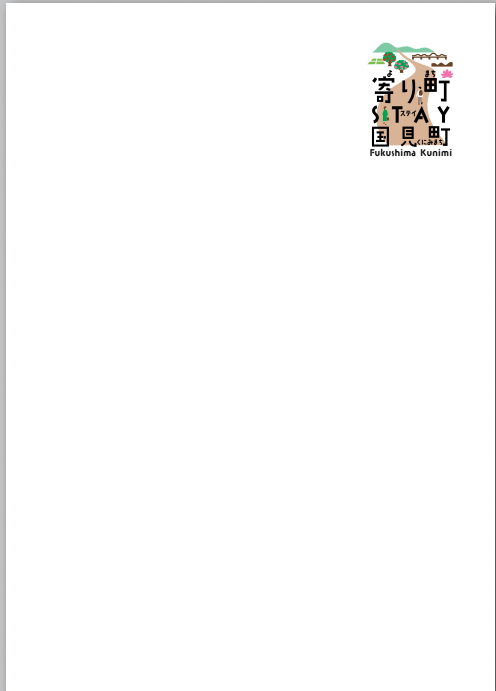
寄り町
ポイント

寄り町
ポイント

寄り町
ポイント



フラッグ



レターヘッド



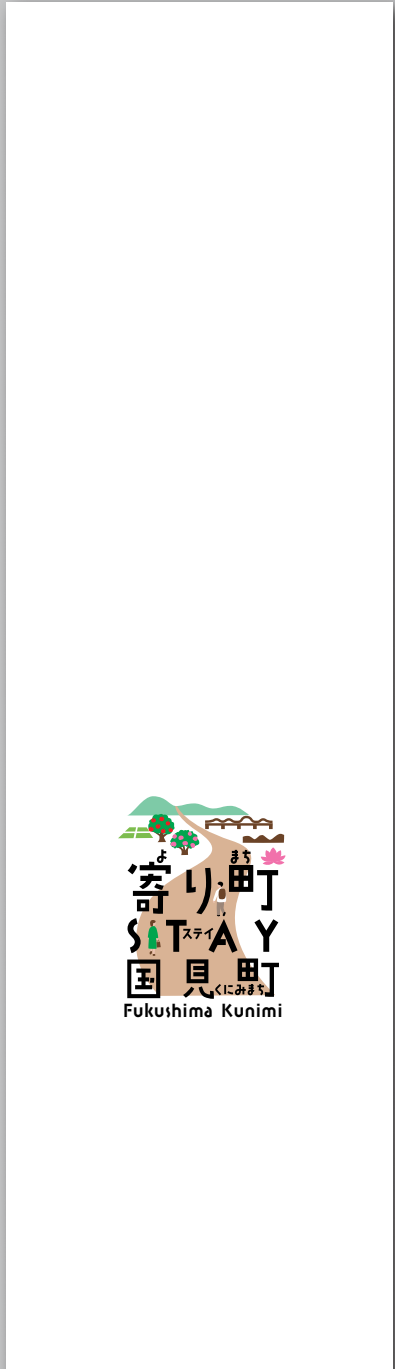
名刺



CD



封筒



フラッグ